

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 147 号 2010. 7. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者が互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

自然のほうじ茶、欠かせません

横浜市 松本悦子



昨年11月に、次女の唯(ゆい)が新型インフルエンザにかかりました。39度を超える熱が出て、頭が痛いと言って、寝るに寝られない状態でした。食べても吐いてしまっ、食欲も減っていき、市販の麦茶を飲んでも戻してしまふほどでした。そんなときでも、自然米で作ったおかゆや自然のほうじ茶、主人が東中野販売で買ってきてくれた山芋は、吐いてしまうことなく、少しずつですが食べることができました。本人も「自然のもの」と聞くと、吐かないかと思うのか、食べる気になったようです。自然農法のお米や作物のすばらしさ、有り難さを改めて実感しました。本当なら何を食べても吐いてしまうところを、自然のものは吐かずに食べられることで、世間を騒がせている新型インフルエンザでも、何の心配もすることなく、安心して病気に向き合うことができ、3、4日で回復しました。

我が家の娘二人は、風邪などで食欲がないときでも、「自然のほうじ茶が飲みたい」と言って、よく飲んでます。また元気なときでも、「(市販の)麦茶などはおいしくない」と言って、ほうじ茶は日々欠かせないものになっています。

小学生の娘と弥生会の畑を体験

江戸川区 針貝広明

7月11日に行われた「小学生の日」に、娘と私、親子共々参加しました。しかも今回は弥生会農園に行くということで、私は以前、係だったこともあり、また弥生会農園の土の自然年数は古く、代々受け継がれ、数々の実施者を生む由緒ある畑でもあるので、ぜひ娘にも見て実感してもらいたいと思いました。

当日は曇り時々雨で、暑くもなく、夏日なのに清々しく、とても動きやすい中、見学、作業を行いました。係の方たちが事前に作物を調べてくださって、小学生の子たちに説明してくれましたが、中には係の方を鉛筆でつついたり、お腹すいたーと言ったり、虫を追っかけたりなど、最初は大丈夫かなと思いましたが、「なんで里芋の葉っぱは大きいのか?」「葉っぱに水がたまってる」とか、係の方でも気づかなかったカボチャを見つけたり、土の中にいるものすごく小さい虫を捕まえようとしていたりなど、時おり見せる子供の観察力にも驚かされました。

お昼は、おにぎり、ふかした自然のじゃがいも、自然のキュウリ、その場でとれた春菊を頂きました。春菊はゆでて、自然の味噌をつけて食べました。最高でした。



午後はいよいよ農作業です。みんなブカブカの軍手をつけていざ畑に! まずはみんなで草取り、どれが作物か雑草が分かりません。係の方も必死で説明してくれました。そして係の方が「クワで畑を耕したい人は?」と呼びかけると、「私やりたい」「僕やりたい」と大人気でした。当然、初めてクワを持つ子は多いでしょう。耕し方を係の方から教わって、一生懸命耕していました。そして、耕した後はその場所に人参の種まきです。みんな一つ一つ丁寧に蒔いていました。

帰り、何人かの小学生に「今日どうだった?」と聞くと、「楽しかった」「また行きたい」と言っていました。私の娘も「人参の種まきがとても楽しかった」と言っていました。他にも、「一本ネギと分けつネギがあるって学んだ」「里芋は水分



が好きで、ジメジメしたところに植えたほうがいと学んだ」とか、「モグラは臆病で、人前に姿を現さないし、ペットボトルの風車でびっくりすると学んだ」など、子供たちそれぞれの収穫はあったようです。

行く前の最初のお話、「今日畑に行ったから自然農法をすべて学ぶということは難しいけど、何か一つ学んで持ち帰ってください」とおりにできたと思います。これからの時代を担っていく小学生たちにとって、貴重な体験になったと思いました。

千葉市 小島さんの畑を訪ねて



7月20日、うだるような暑さの中、自然農法の実施者である小島ます枝さんの畑を訪ねた。

小島さんは生まれが農家で現在も農業に携わるベテランであるが、無施肥無農薬栽培に切り替えてからは、「やっと10年目を迎えたところで、まだまだです」と謙虚な姿勢をくずさない。今回も最初は訪問を断われたが、何度かお電話をするうちに、良いお話が色々出てくるので、半ば強引に約束を取り付けた次第だった。

畑には、トウモロコシ、枝豆、トマト、インゲン、かぼちゃ、スイカ、ゴーヤなどが育ち、「作物を作るのが好きで、草取りや畑仕事も好きで、毎日足を運んでいます」の言葉どおり、愛情をもって一つ一つの作物を育てていることが感じられた。それぞれの作物の自家採種にも追求を怠らない。

小島さんの自然農法実践のきっかけは、ぜん息の苦しみによる。大きな病院を転々としたが、病状が良くならないと悩んでいた平成12年、体の自然治癒力を増す方法とともに自然農法のことを教えてもらい、すぐに飛びつく。そして畑の一部約400坪の土地で自然農法を実施し、その作物を食したところ、おいしいばかりか確かに体に良いと実感したとのこと。ぜん息の症状はその後自然に治ってしまった。以来、自然農法を継続し、毎日毎日、大好きな畑仕事に精を出している。

しかし、ご家族や周囲の農家からは、作物の大きさの問題で、なかなか自然農法の理解を得られていない。自然農法の作物は、肥料によって人為的に大きくしたものではないため、小ぶりのものも確かにある。それでも、ご主人が、ある農協関係の行事で、料理の先生に自然の作物を渡したところ、味をとてほめてもらい、それがうれしかったと小島さんは言う。

全身からふきだす汗。土蔵の陰で休ませてもらっていたとき、小島さんが、今まで見たこともない贅沢な切り方をしたスイカを持ってきてくださった。それにかぶりついた瞬間、何とも言えない甘さが口内から全身に広がり、力がみなぎってくるように感じた。これが、岡田茂吉師曰く、未だ科学では発見されていない、火素、水素、土素の融合した目に見えない力ではないかとさえ感じた。

自然農法の普及を考える上で、作物の大きさは一つの課題となるかもしれないが、この食すとあふれ出てくるような見えない力を体感するとき、それは大した問題ではないのではないかと個人的には思った。とにかく暑かった。(編集部)



お知らせ

- ★ 自然農法農産展 ★ 8月3日(火) 販売 / 8月15日(日) 展示
販売予定はチラシをご覧ください。
- ★ 自然農法頒布会 8月18日(水) 鎌ヶ谷会場 11:00~ 売り切れ次第終了
- ★ 自然農法勉強会 8月24日(火) 午前の部 10:30~
午後の部 19:00~ 別院講堂



お問い合わせ先: 編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>